

# SHAKE HANDS Letter

創造・交流・成長

発行人 事務局 京都市ベンチャービジネススクラブ  
 京都市中京区寺町通御池上る京都市産業観光局商工部産業振興課内  
 TEL 075 (222) 3324

創業支援融資制度『ここから、はじまる』



「賢木」の巻に登場する雲林院は、中世までは大徳寺の東南にあった広大な寺で、淳和天皇の離宮として創建されました。今でも安産祈禱の信仰があるのは、紫式部の母が難産で参詣したところ、式部が誕生したことに由来しています。光源氏は、父 桐壺帝の後妻である藤壺と不義の関係にありましたが、藤壺への抑えがたい想いに悩み、救いを求めて籠もったのも雲林院でした。 [写真提供] 雲林院

## 京都信用金庫 連携支援部

自己実現を図ろうとする人たちを、  
新しい発想で応援する

昨年6月、このテーマを掲げて、創業支援融資制度『ここから、はじまる』の取り扱いを開始しました。これは、単なる融資商品という位置付けではなく、“起業者の目線に立つものごとを考え、苦楽を共にする”ことを目的としています。すなわち、創業を思い浮かべる、あるいは創業せんとするタイミングから共に知恵を出し合い、当該事業がキャッシュフローを生み出せるような計画をつくり、事業を継続・発展させるために、あるいはデスパレーに落ちないように、金融のみならずマッチング等連携による支援を合わせて取り組むことです。

融資の設計という意味においては、創業者と目線を合わせることを徹底的に突き詰めた結果、事業の進捗状況に合わせています。創業当初は、必要な時に必要な額をご融資できる当座貸越で、毎月返済をせず且つ低金利設定により、立ち上げ時をサポートします。その後、事業が軌道に乗った段階でキャッシュフローの状況に合わせ、金額・期間を再度検討した上で、毎月返済に切り替えるという形態です。

創業支援融資制度を始めた経緯は、当金庫が1970年に提唱した「コミュニティ・バ

ンク論」(当金庫の行動理念であり、いわばバイブル)を、今の時代にどのように実践するかを突き詰めたものです。「コミュニティ・バンク」の使命は、地域社会と真の意味で共存をはかる、すなわち地域と運命共同体といえるでしょう。しかしながら、その根幹に関わる事業所数は、バブル期をピークに減少の一途をたどり、地域の雇用者数も同様の動きとなっており、手をこまねいてられない状況です。さらに、人口減少という未踏の事業環境の中で、創業しようとする“熱い想い”の人たちを支援するのは、コミュニティ・バンクの社会的使命と考えました。

おかげさまで、当金庫は今年度85周年を迎えました。新しい時代のコミュニティ・バンクを実践するべく、90周年に向けての中期計画として「絆づくり5力年計画」を策定しました。基本方針は、顧客目線にあつたきめこまやかな接客姿勢と、地元中小企業に対する付加価値の高いサポート体制を確立することにより、“地域との絆”をより一層深め、コミュニティ・バンクとしての社会的使命を発揮することです。役職員一人ひとりが、熱い情熱と高い品性・倫理観をもって“地域における絆づくり”に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願い致します。

## 特許を生かした経営戦略

講師：高田 寛 (財)京都高度技術研究所イノベーションコーディネーター

去る7月23日(水)京の山・杣人工房「空」(そまびとこうぼう「くう」)において、KVBC7月例会が開催されました。今回は、財団法人京都高度技術研究所でベンチャー支援を展開されている高田 寛コーディネーターをお招きし、ベンチャー経営における特許の生かし方などについてお話いただきました。質疑応答も活発に行われ、会員皆様の関心の高さが伺われる講演でした。



### 日本は特許権の独占、アメリカは共有化の流れ

特許というのは本当に儲かるのでしょうか。特許を生かした経営戦略を考えるベンチャー企業の皆さんなら、誰もが関心をもっていると思います。これまでの例を振り返れば、小学4年生の女の子が発明した「犬のウンチ拾い紙スコップ」は年商1,200万円、かかとの部分しかない小さな「初恋ダイエットスリッパ」の年商は約7億円だそうです。また、中村裁判で有名な「青色発光ダイオード」は日亜化学工業に1,208億円を超える利益をもたらしたといわれています。もちろん、特許をもっているからといって、それがすぐに利益に結びつくわけではありません。最近、注目されているのは“知財信託”といわれる新しいビジネスです。特に、中小企業や大学などでは、使われずに眠っている特許(技術やアイデア)がたくさんあります。こうした知

的財産を銀行に付託し、自分の特許を使ってくれるクライアントを見つけてもらおうというもので、これから特許戦略を考える企業の皆さんにとって、一つのビジネスツールになり得るのではないかと考えています。

現在、世界で最も特許で稼いでいる会社はIBM(15年連続でアメリカ特許取得件数年間最多)ですが、ここ数年はソニーやノキアなどと協力して、環境技術に関する特許をウェブ上で公開・共有化するなど、その方針を180度転換しつつあります。日本においてはまだまだ“特許権利者を保護しよう、企業利益を優先しよう”という傾向が強いようですが、特定の企業や個人に強い独占権を与えてしまうと産業の発展を阻害する部分もあるので、アメリカのようになるべく特許を開放して技術を共有して使ってもいいのではないかと、それがウィン-ウィンの社会関係を築くことにつながるのではないかと思っています。

### 知財経営の第一歩は、自社の優位性を特定すること

特許庁の知財戦略マニュアルによれば、知財経営とは“競争力を確保・維持・強化する経営手法”で、“競合他社の安易な市場参入を抑制し、価格競争に陥ることがないので、利益率を高めることができる...”と位置づけられています。確かに、知財がないことによって自社の技術がライバル企業に真似され、自社製品の売り上げが落ち込んだり、技術を権利化していなかったために泣き寝入りするしかなかったという話はよく耳にします。しかし、知財経営を行っているからといって“競争力を確保・維持・強化”したり、“他社の安易な市場参入を抑制”することはなかなか難しいのが現状です。

では、知財経営を進めていくために、どのようなことから始めればいいのか。まず第1ステップとして、自社の競争力を分析し、自社の商品が売れる理由(優位性)を考えてほしいと思います。自社の優位性が技術的要素にあると判断した場合、それが先ほど紹介したスリッパのように、誰かに模倣されたことが容易に検出できるものであれば、特許戦略を検討します。しかし、たとえばお菓子の中にあんこを詰める手法の特許であれば、模倣されたことをすべて検出するのは不可能です。この場合は、特許戦略ではなく、ノウハウとして管理する方法を考慮すべきでしょう。もし、自社の優位性が



技術的要素ではない場合、それは企業ののれん、信用力が優位性の原動力だと考えられるので、ブランド戦略などを検討してはいかがでしょうか。

### 敵を知り、己を知る 「特許調査」の重要性

「敵を知り、己を知れば、百戦危うからず」という名言があります。ライバル企業や自社の経営力、技術力を分析することは、ビジネスという戦いを勝ち抜くために必要不可欠になってい

ます。彼我の力を比較し、分析する手法の一つとして、特許取得の有無にかかわらず「特許調査」が有効です。せっかく開発した技術やアイデアでも、それがすでに他社の特許であれば、高額なロイヤリティを要求されたり、損害賠償を請求される恐れもあります。“自分の技術が他社の特許を侵害していないか”“出願予定の発明が本当に特許になるのか”など、さまざまな可能性を事前に調べることが大切です。調査によって、その業界の技術傾向やライバル企業の動向も把握できます。

特許を出願して1年半経てば出願の内容が特許公開公報に掲載され、そのアイデアや技術が自由に閲覧されることとなります。市場のニーズを的確につかむためにも、特許調査は有効な方法と考えられるでしょう。

特定の技術やアイデアを“コア・コンピタンス”とするベンチャー企業にとって、特許を生かした知財経営の重要性は今後ますます高まっていくでしょう。もう一度、自社の強みや魅力を見直し、市場競争を勝ち抜く経営戦略に取り組んでいただきたいと思います。

KVBC8月例会

# 京都大学桂キャンパス ローム記念館にて 講演会等開催される



ローム記念館屋上から

去る8月22日（金）、KVBC8月例会ならびに納涼会が開催されました。

例会は、ローム記念館の大ホールを貸し切って行われました。開催前に、通常、見学できない屋上に招かれ、緑に囲まれ非常に眺めのよい景色を堪能しました。

講演会に先立ち、井上代表幹事のご挨拶をいただきました。講師には織物美術家の龍村光峯氏をお招きし、「錦織の世界 - “機械” とデジタル技術の原点」をテーマにお話を伺いました。現代の技術革新に生きる伝統の技、そして知恵を、さまざまな具体例を示しながらわかりやすく説明されました。織物の過程で使われる機械「ジャカード」がコンピューターの原点であり、経糸と緯糸の組み合わせからなる織物は“0-1”の世界で、それがデジタル技術につながるものであることなどを話され、非常に興味深い内容に参加者の方々も真剣に耳を傾けておられました。

次に、JST（独立行政法人科学技術振興機構）イノベーションプラザ京都の事務局長・小西隆氏から産学連携の

取り組みについてお話しいただきました。大学等の研究成果を企業へと還元するための仲介としての役割をもつJSTは、資金助成を行っています。それには大学等との連携が不可欠ですが、JSTの事業のなかには企業のニーズに基づいて公的研究機関等との研究開発を助成する「地域イノベーション創出総合支援事業（地域ニーズ即応型）」という取り組みも行っていきます。そのほか、公開特許情報だけでなく、未公開特許情報も掲載しているデータベース「J STORE」、全国の大学を網羅的に扱い研究成果を検索できる「e seeds」、産学官連携に関するイベント情報をのせた「産学官の道しるべ」など、インターネットを介すことで企業と大学等との連携をとりやすくする情報提供も進め



小西氏  
取り組みの説明をされる

ているといいま

す。今までは、制度単位で助成・支援を行ってきましたが、今後は課題や提案ごとにフレキシブルに対応していくという変換期になってきていることなどをご説明いただきました。

講演会等終了後は、洛西ふれあいの里保養研修センター「ふれあい会館」へと会場を移動。館内に設置されている福祉機器の展示室などの見学を行った後、納涼会が開催され、終始なごやかな雰囲気の中閉会となりました。



“いやし”のグッズ説明をされる  
センター管理部長の森氏（中央）



納涼会で挨拶される井上代表幹事

# 錦織の世界

## —「機械」とデジタル技術の原点

～現代の技術革新に生きる伝統の技と知恵～

講師：龍村 光峯（織物美術家）

### プロフィール

兵庫県生まれ。早稲田大学文学部卒業。1976年、株式会社龍村平蔵織物美術研究所を設立。1982年、社名を株式会社龍村光峯に改称。1994年、日本伝統織物保存研究会を設立、理事長に就任。1998年、龍村光峯作品集『KOHO』を製作、出版。2004年、フランスのバリ日本文化会館にて「光峯の織物美術 - 光の織物 - 」展開催。



### 錦織の 伝統の技と知恵

「錦」とは、昔から“故郷に錦を飾る”“錦の御旗”というように美しいものを形容して使われてきました。錦は“金+帛”と書くように金に値する織物で、精緻で豪華絢爛な最高峰の織物のことをいいます。錦織の製造工程は多く、大きく分けて12工程、実際は職人の違う工程が七十数工程にもなり、それぞれが高度に専門分業化された世界なのです。それゆえ、全工程を一人で行うのは不可能に近く、友禅作家はいても、西陣織の作家がいないのはそのためです。

私の仕事はアニメーション制作の映画監督やオーケストラの指揮者といったプロデューサー兼アートディレクターで、専門の職人を束ねて一つの作品を完成させることです。しかし現在、専門の職人はどんどん減っており、たとえば織物を織るときに必要な「杼」という道具を作る職人は、最後の一人となってしまう危機的な状況になっています。

錦織には高度な技術が生きています。フランス・パリで展覧会を催したとき、「これほど精緻な織物は見たことがない」と

驚かれました。こうした世界でも類のないすばらしい技術をなんとかして後世に残さねばと、“日本伝統織物保存研究会”を設立し、総合的復元事業として機や道具など専門の職人に仕事を創出し、それにより技術を継承させていくという仕事をしています。また、映像や写真、聞き取り調査などを記録に取り、伝統を次代へつなげていくことができます。

また、こういった伝統を守り、研究をするだけでなく新たな錦織の世界を作り上げ、錦織の伝統と技と知恵を現代に生かしていこうと考えています。このことを私は「翻古為新」、「古を翻して、新しきを為す」と言っています。

### デジタルとアナログが 融合した織物は 無限の可能性を秘めている

機械という言葉は「織機」からきています。織機は近代的な機械の原点なのです。織物は経糸を上げるか下げるか、緯糸を入れるか入れないかというシステム、いわば“0-1”の世界で、デジタルの技術につながっています。コンピュータグラフィックを拡大すると縁に階段状のマス目ができますが、それを織物では“ハツリ”と呼びます。江戸時代に伊藤若冲が描いた『鳥獣草花図屏風』にはこのハツリの面白さがすでに生かされています。

私の祖父である初代龍村



質問に答える龍村氏

平蔵（号・光波）は「織物は偶数で割り切れる世界。芸術は奇数で割り切れない世界。割り切れる世界から割り切れない世界を創出するのが織物美術である」と言いました。織物は経糸と緯糸との組み合わせ“組織”の変化でいろいろなテクスチャーが生まれます。また組織の仕方だけでなく金箔や金銀糸、糸の撚り方、色彩などの工夫により、無限の可能性を秘めています。

なかでも錦織は光によって表情が千変万化します。フランスでは「光の織物」と評されました。『詩経』にも「錦が燦々と輝く」とあるように、古代から光の芸術だったのです。また、絹の断面を顕微鏡で見ると三角形の形をしています。それがプリズム効果の働きをし、光が乱反射して黄金に輝いて見えるのです。このように織物を光で表現することによって新しい表現や発想が生まれてきました。錦織は作る過程ではデジタルですが、織物になればアナログの世界に戻ります。いわばデジタルとアナログが融合したものであり、それは21世紀の技術においても役立つものと確信しています。



# 京のすぐれもの探訪

京都には、匠の技術が活かされた伝統工芸品や京野菜に見られる京都独自の食材など、すぐれものが多種多様にあります。そのような有形無形のすぐれものを取り上げ、現代社会のなかでの新しい活用法や、その可能性についても併せてご紹介いたします。

## 京都型エコカー

～人と自然に優しく～

深刻化する地球温暖化防止のため、今、石油やガスといった化石燃料で走る自動車ではなく、走行時に二酸化炭素などの温室効果ガスを発生させない「電気自動車」が見直されている。これまでに開発された電気自動車は、長時間の充電に見合うほどの走行距離とパワーが得られず、普及に至らなかった。しかし、リチウムイオン電池の登場により、短時間の充電で長距離走行が可能となったため、環境問題への関心の高まりを背景に、“自然に優しい”がコンセプトの電気自動車が再び注目を浴びている。

京都の大学とベンチャー企業が共同で研究開発した電気自動車は、古くから息づく伝統の技とハイテク技術の融合が注目される京都ならではの「京都型エコカー」。エンジン部分には、リチウムイオン電池と加速やブレーキ時の発電性能に優れたコンデンサー（蓄電器）を組み合わせることで、10分間の充電で10キロもの距離を走ることを可能にしたという。また、外装には京都の景観になじみの深い“竹”をふんだんに使った。竹は生長が早く、育ちすぎると影が他の植物を覆い生長を妨げてしまうために、ともすると里山の害にもなってしまう。京都型エコカーは、その竹をドアや屋根といった外観素材に使うことで竹を有効活用できると同時に“京都らしさ”をアピールすることに成功したといえるだろう。今後は、京友禅や近年開発された耐光性の高い漆で彩ることで、京都らしさをより高めたモデルも登場する予定だという。

最先端の技術を用いながらも、伝統文化の技の粋を取り入れることで、ハイテクと伝統との見事な融和を果たした京都型エコカー。京都が環境モデル都市として選ばれれば、観光用のレンタカーに用いられる可能性も高く、そこにあるビジネスチャンスは、竹のように大きく高く伸びる可能性を秘めているといえるかもしれない。

### あちらこちらに使われる竹

生長が早く、丈夫で弾力性のある竹は、古くからさまざまな素材として使われてきた。うちわや扇子の骨、筆の軸といった日用品や工芸品はもちろんのこと、建築用材などにも使われている。鉄が不足していたときには、その代わりとして鉄筋コンクリートならぬ「竹筋コンクリート」として用いられたこともあったそうだ。また、珍しい使われ方としては、レコードの針や棒高跳びの棒、スキーのストックなどがあり、竹の見せる表情の豊かさには驚かされる。

## 活発に情報交換がなされ、鵜飼観賞にも大満足！

去る8月8日（金）、ものづくり研究会例会が民芸風京格子の店「嵐山まつ屋」で開催されました。第1部は納涼会席にて情報交換がなされ、第2部は嵐山の鵜飼を楽しみました。当日は北京オリンピックの開会式と重なったせいで、通常より参加者が若干少ない12名でした。

第1部は、現在の“ものづくり”環境に沿った内容で、今後の研究に生かされるような、会員の方々の活発な情報交換の場となりました。第2部は、会員相互の交流をさらに図るべく「嵐山の鵜飼」を楽しみました。参加者のほとんどが初観賞ということもあり、この紙面を借りて簡単にご紹介します。

渡月橋から川の上流にある小さな段差に杭が出ていま

す。その杭に乗合船が渡月橋と平行に段差から落ちないように配置され、桂川をせき止めるかのように並びます。その前（乗合船左側）を鵜飼の船が鵜を扱いながら2隻往復します。鵜飼船がその後上流に移動すると、今度は乗合船が上流に向かい縦1列に縄で固定され、その乗合船右側を上流から下流へ鵜飼をしながら移動。方向を変え、下流から上流に鵜飼をしながら移動するので、乗合船の左右に座っている人が平等に観賞できるように配慮されています。船の動きに合わせてゆっくり周囲の景色を見ることができ、1時間あまりの鵜飼観賞は本当に満足のいくものでした。

### 集客交流研究会

## 東京スカイツリー（新タワー）開発計画にみる集客

去る9月8日（月）、株式会社ユニシス会議室において東武タワー スカイツリー株式会社計画本部課長の望月康紀氏より、2012年春開業の東京スカイツリーについて、資料を交えわかりやすく具体的に説明を受けました。

東京スカイツリーは、東京都心の年々増加する200m級超高層ビルの影響を低減し、安定した電波を広範囲に供給するという電波塔と、展望塔をもった観光施設という役割を担います。高さは、日本一で約610m。安全・安心を提供するために、耐震構造であることはもちろん地域防災機能としての広場を設けるなど考えられています。

東京は、西地区（赤坂・六本木・新宿など）や湾岸地区（お台場）の開発が進むものの、下町文化の面影を残す東地区は開発が遅れていました。そこで、開発拠点として、墨田・台東地区が選ばれたといいます。ここには、すでに観光地（上野・浅草）があるので集客が見込めること、交通（陸・空・水）の利便性が非常に高いことなどから、



全国のみならず海外からの誘客も視野に入れていると話されました。なお、初年度は540万人の集客を見込んでいるとのこと。

今後は、「下町文化を残しつつ、地元の人との関係をさらに深く構築すること

や、行政や各関係機関とも協力し、伝統産業の技術・文化を発信できるように考えていきたい」と述べられました。また、「年間約5,000万人の観光客が訪れる京都を見習い、日本の伝統産業という共通性からそれぞれを学び、お互いを発信できればよいのではないかと結ばれました。

フリートークでは「駐車場収容台数が少ないのではないか」「環境に配慮した点は何か」「視察はいつできるのか」「展望塔の費用は決まっているのか」などの質問のほか、「ゲームも考えられないか」「噴水も出せるのではないか」などの意見も出て、活発なやりとりが行われました。

### 会員動向

会員企業の退会をお知らせします。

正会員 株式会社ハイパーテック（代表取締役 小川秀明氏）

賛助会員 フューチャーベンチャーキャピタル株式会社（代表取締役社長 川分陽二氏）

## Information 活動報告&予定

8月 8日(金) 18:00 ~ ものづくり研究会 8月例会	(嵐山まつ屋)	9月17日(水) 18:00 ~ 21:00 ものづくり研究会 9月例会「源氏物語 朗読の会」	(南禅寺ぎんもんど)
8月22日(金) 15:00 ~ 20:00 (京大桂ローム記念館、ふれあい会館) KVBC 8月例会(講演会&納涼会)		9月18日(木) 18:00 ~ グローバル研究会 「オリンピック後の中国経済の動向(高度成長か停滞か?)」	(呉竹文化センター)
9月 8日(月) 18:00 ~ 20:00 集客交流研究会 9月例会 「東武タワー スカイツリー様との交流会」	(株ユニシス)	9月26日(金) 18:30 ~ 20:00 KVBC 9月例会(営業セミナー)	(メルパルク京都)